



貧困の連鎖を断ち切れ！！

～SIBを使った貧困家庭の子どもへの教育・大学進学プログラム～



日本大学経済学部

中瀬史也
長谷川文彦
奥田奈々子
小田留理子





01

現状分析

- 貧困率の推移
- 貧困の連鎖
- 社会的損失
- 3つの要素

02

提言1

- 対象者の決定方法
- 必要金額
- 支援方法
- 寄付金の現状
- 3本の矢

03

提言2

- 奨学金返済の現状
- 所得連動型奨学金
- SIBの導入
- それぞれの役割
- それぞれの収益

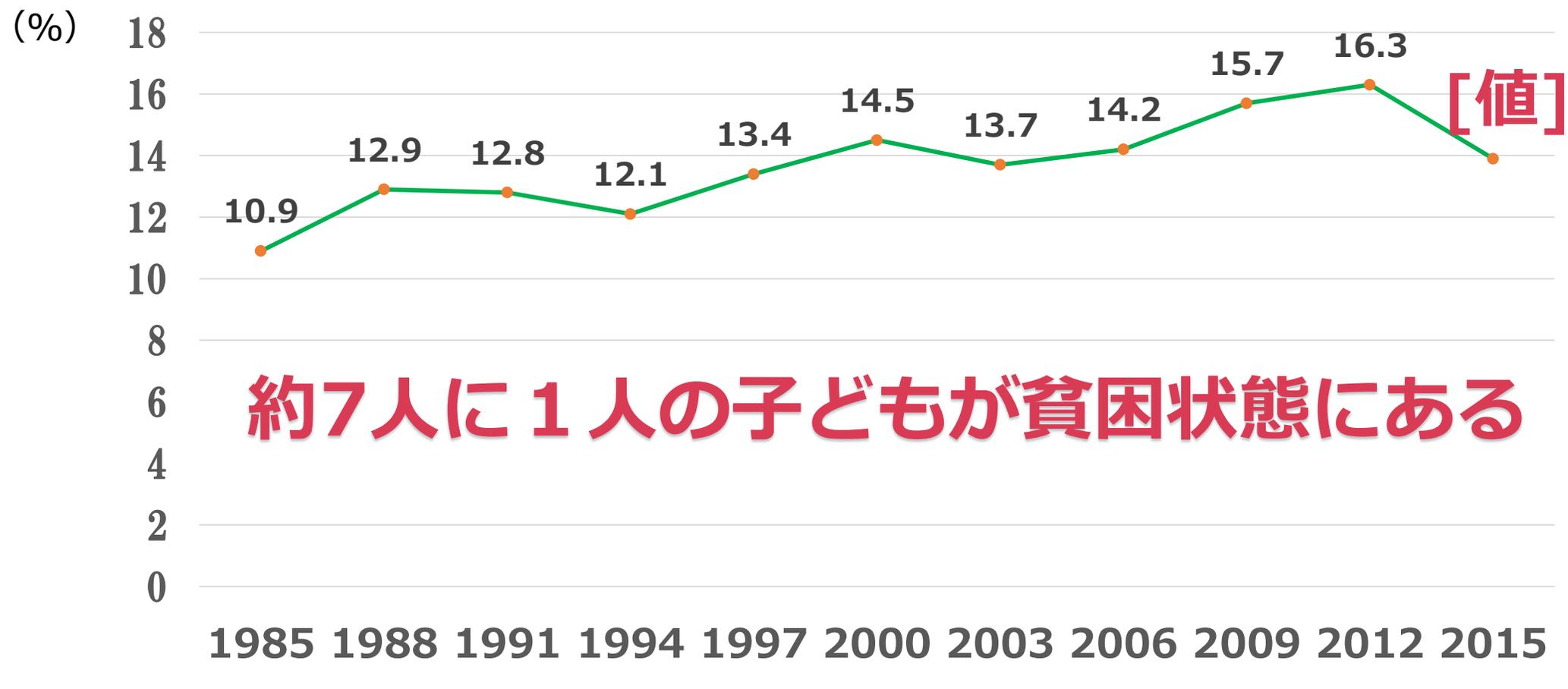
04

総括

- 提案の柔軟性
- 今後の展望

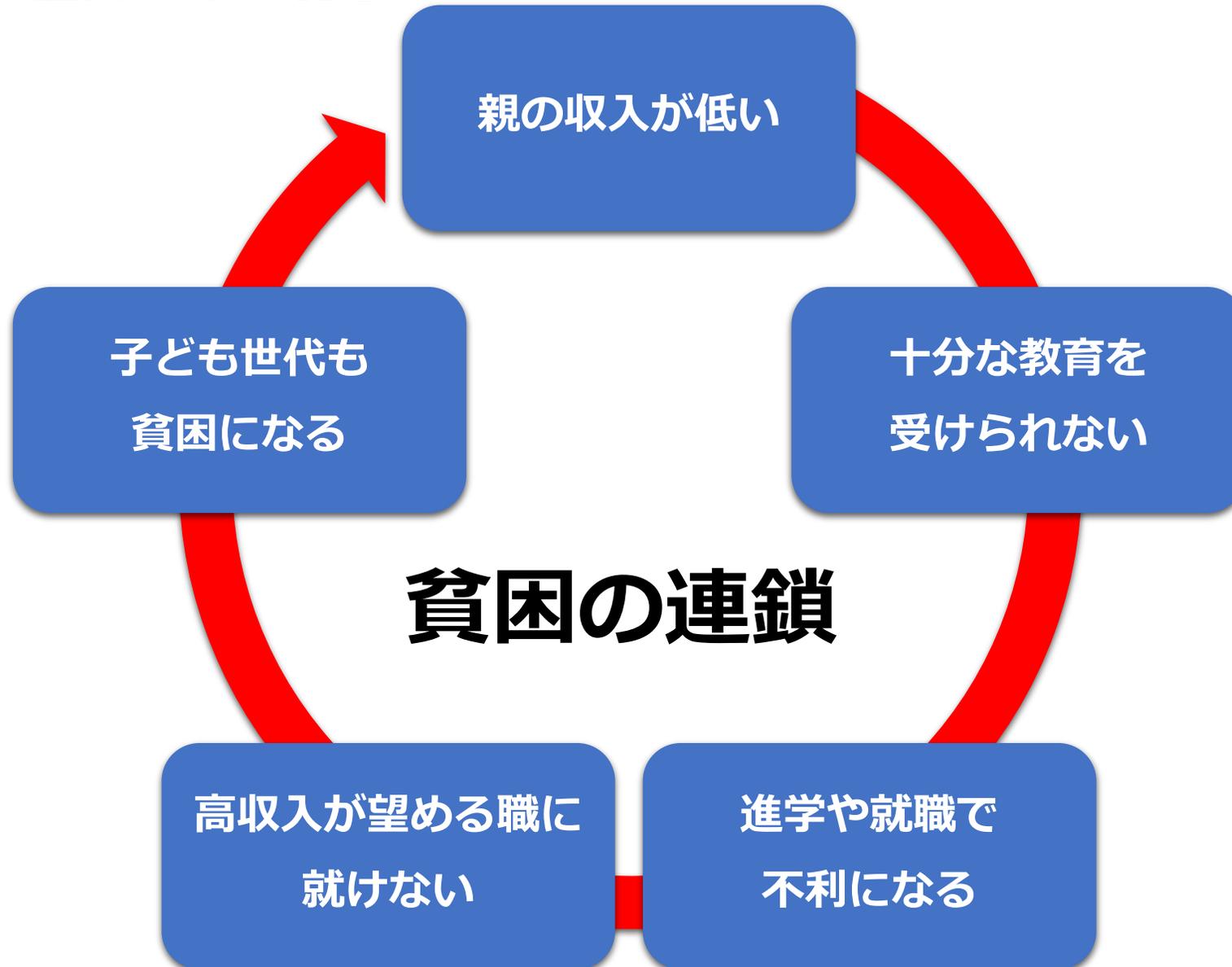


子どもの貧困率の推移



日本財団【子どもの貧困の社会的推計レポート】より

貧困の連鎖の流れ



社会的損失

日本財団【子どもの貧困の社会的推計レポート】より

- ・ 現状を放置した場合 = 現状シナリオ
- ・ 子どもの教育格差を改善する対策を行った場合 = 改善シナリオ

シナリオ	所得	税・社会保障の 純負担	正規職
現状シナリオ	22.6兆円	5.7兆円	8.1万人
改善シナリオ	25.5兆円	6.8兆円	9万人
差分	2.9兆円	1.1兆円	0.9万人

➡ 子どもの貧困問題がもたらす社会的損失 = 1学年で **4兆円**

貧困の連鎖を断ち切る要素

学力

※箕面市（大阪府）の調査結果より作成

収入

非認知的能力

※非認知的能力とは、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力などを指す



3つの要素の取得が不可欠



現状分析まとめ

子どもの貧困問題には、貧困の連鎖が大きく関連している

解決には、学力・収入・非認知的能力が不可欠



解決することで貧困に悩む子どもと国の双方に
メリットがある





Ⅱ 提言

貧困家庭の子どもを対象にした
教育・進学支援プログラム



提言内容

寄付金による学力養成
提言①

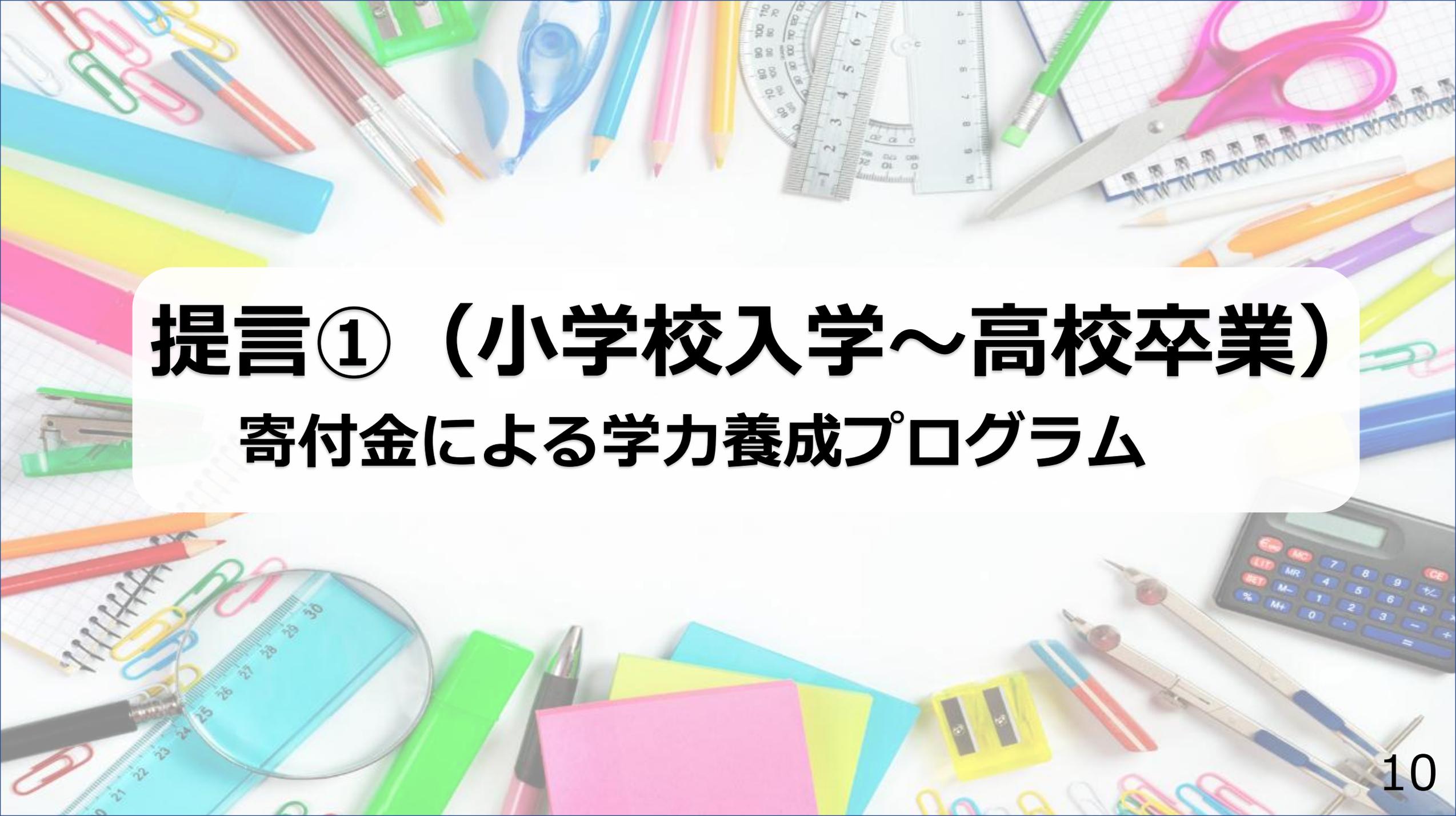
奨学金 + SIBによる進学支援
提言②



小学校入学～高校卒業



大学入学～卒業



提言①（小学校入学～高校卒業）

寄付金による学力養成プログラム

提言①の概要



支援目的	大学進学に向けた学力養成、非認知的能力の育成
支援対象	本来は学習したいにもかかわらず経済的な理由で かなわない子どもも <u>200人</u>
支援期間	小学校入学から高校卒業までの計 <u>12年間</u>

教育支援対象者の決定方法

参加を希望する子ども



選考に応募

審査

NPO



判定基準

- ① 本人の意欲
- ② 世帯収入
- ③ 兄弟の人数 など

参加する子どもへのお金の流れ

選抜された子どもの住む
地域の自治体



② 明細を送る

③ お金を支給

① 子どもの教育費を送金

④ 余剰分は返金



選抜された子ども

NPO





支援に必要な金額



3億1540万円



日本の寄付の現状

寄付総額の日米英比較

2010年度	寄付総額	対GDP比
日本	8,804億円	0,18%
米国	25兆5,245億円	2,01%
英国	1兆4,914億円	0,75%

ファンドレイジング協会寄付白書2015年より作成

➡ 現状では諸外国と比べ寄付は**集まっていない**



寄付額を増やすための三本の矢

① 企業向け…教育支援賛同企業のマークを作成



② 学校向け…フェアトレード型の寄付を導入

③ 個人向け…インターネット募金だけでなく街頭募金なども行い認知度増加



目的) 寄付に対する関心などの調査
アンケート対象者) 日本大学の学生279人

子どもの貧困に対する認知度は低い



インターネットでの寄付を行うには抵抗がある



フェアトレード型の目に見えない形での寄付に対する好感度は高い

学校向けの取り組み（フェアトレード型の寄付金集め）

現在のNU丼

270円→280円

10円を寄付

$500(\text{枚}) \times 10(\text{円}) \times 5(\text{日}) \times 4(\text{週間}) \times 9(\text{カ月}) = 90\text{万円}$

※休暇を除く

小規模の取り組みが全国の大学に広まった場合
年間約3億9500万円集まる



提言①まとめ

- ✓ 三本の矢によってプログラムに必要な寄付金を集める
- ✓ プログラム参加者の大学進学に向けた学力の下地を完成させる



企業	1. 5億円
フェアトレード型の寄付	1. 5億円
個人	1 5 4 0万円
合計	3億1 5 4 0万円

提言②（大学進学～卒業）

奨学金とSIBを利用した進学支援プログラム





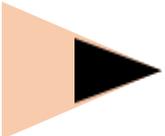
提案②奨学金とSIBを併用した進学サポート

目的) 提案1によって大学進学に必要な学力を身に着けた子どもの
大学4年間の授業料の負担を減らす

方法) SIBを利用し参加者の自己負担割合を減らす

現在

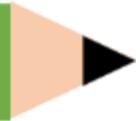
奨学金 10割



導入後

SIB 2割

奨学金 8割





大学生の教育費

大学生の教育費総額 〈単位：万円〉 ※在学費用とは授業料、通学日、教科書代などの学校教育費と
習い事などの家庭教育費を合計したものを指す

	国立(4年)	私立短大(2年)	私立文系(4年)	私立理系(4年)
入学費用	83.2	78.2	104.3	109.9
在学費用	428	284.4	588	677.6
合計	511.2	362.6	692.3	787.5

日本政策金融公庫 【教育費負担の実質調査結果(平成26年度)】より作成

4年制大学の場合教育費は約500万円~800万円



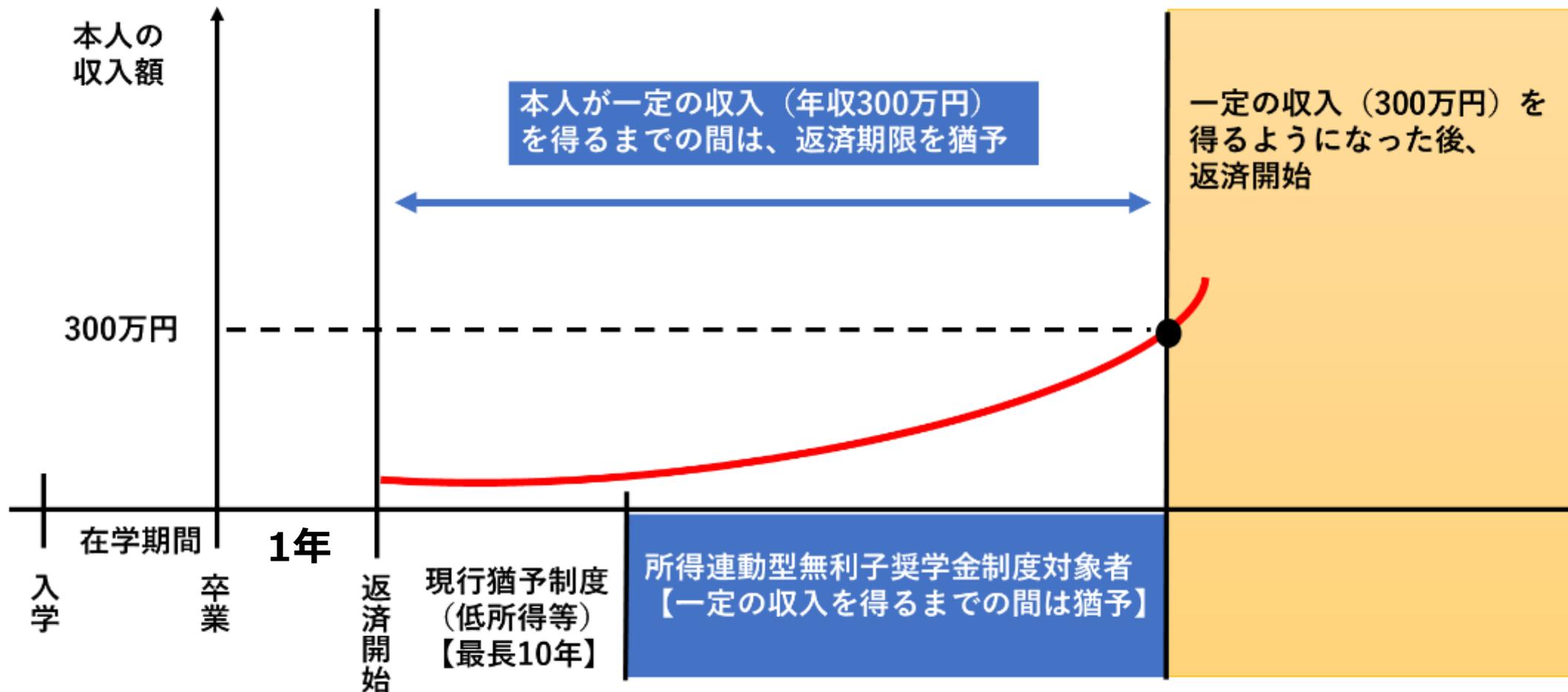
現状の奨学金問題

- ✓ 奨学金返済が卒業してすぐなので、生活を圧迫
- ✓ 年収が低い人にとっては返済が困難



奨学金の滞納問題が社会問題化

所得連動型システムを導入する





奨学金 まとめ

従来の一一定額返済から収入状況に見合った返済方法が可能

少額で一一定額の支払いを長期にする

支払いまでに全員に一年猶予を与える

提言②概要図

投資家



① 資金を投資



NPO



② 生産性の高いサービスを提供



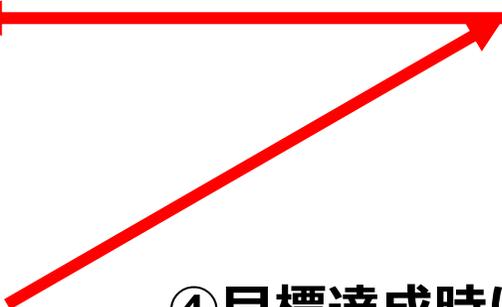
プログラム参加者



政府



④ 目標達成時に報酬を支払う



大学



③ サービスの成果を独立した
評価機関が評価・報告



投資家の役割・収益

- ✓ 善意の気持ちで行う投資で収益の獲得が可能
- ✓ 国債や社債に比べて収益率が高い



投資家の出資額

4年制大学の平均教育費用・・・約700万円

SIBで必要なお金・・・一人当たり700万円×0.3=210万円

210万円×200人=420,000,000円=4億2000万円

大学・事業者（NPO）の役割・収益

NPO



- 1 投資家の資金の収集・分配としての役割を担う
- 2 保護者セミナーなど精神面でのサポート

金融機関、評価機関には200（人）×70（万円） = **1億4000万円**

※授業料700万円の1割（手数料）

大学

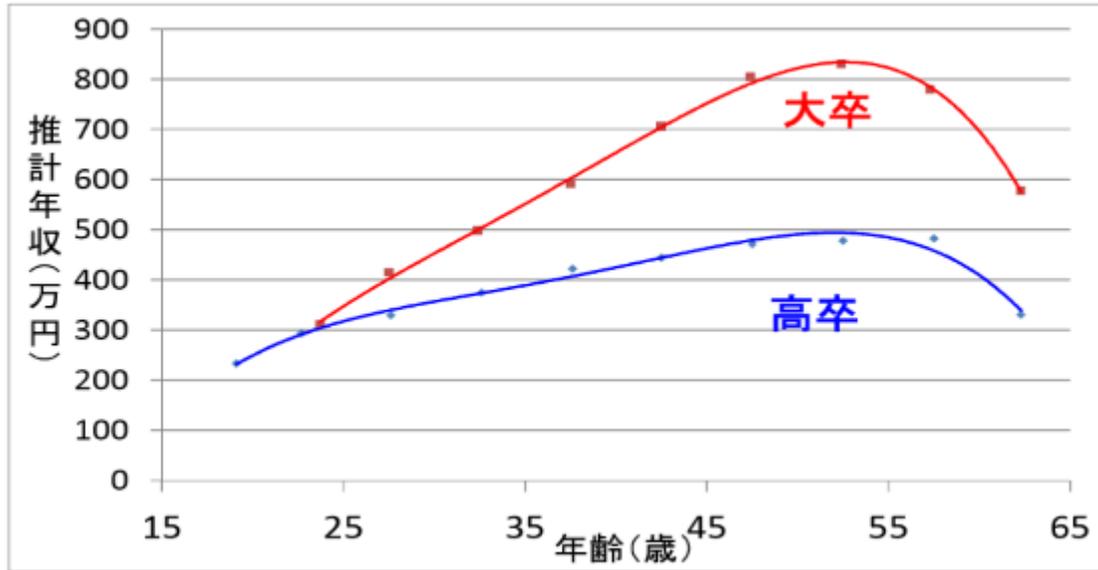


- 1 大学内でのGPAを評価
- 2 卒業後、就職先での働きを評価し正当な評価を行う

新たな受験者の発掘、学習意欲の高い学生の獲得

政府の役割と収益①

高卒から大卒になった場合



65歳までの所得・住民・消費税額を推計
(失業リスクを考慮・現在価値への割引済)



国立教育政策研究所
(教育の社会的効果に関する研究) より作成

大卒になると一人当たり約 **600万円** のメリットがある

政府の役割と収益② (プログラムによる効果)



報酬を支払う条件

- ①大学卒業
- ②就職し1年間の継続など

$$\begin{aligned} & 600 \text{ (万円)} \times 200 \text{ (人)} = 12 \text{ 億円} \\ \text{— 投資家へのリターン} & = 4 \text{ 億}6200 \text{ 万円} \end{aligned}$$

$$\text{国の収益} = \underline{\underline{7 \text{ 億}3800 \text{ 万円}}}$$



提言②まとめ 全体の収益図

投資家

4200万円

事業者 (NPO)

1億4000万円

政府

7億3800万円

支援を受けた子どもたち

大学に進学出来る
貧困からの脱却



提言②のまとめ

子どもたちの大学進学サポート

貧困の連鎖からの脱却

参加者全員にメリットがある



IV総括

- ✓ 貧困の連鎖を断ち切ることが可能
- ✓ SIBの関心はまだまだ成長段階にあり
本提案が広まることで規模、期間の拡大が可能
- ✓ 本提案は①と②の分裂が可能で柔軟性がある

参考文献・URL

日本財団 三菱リサーチ&コンサルティング

子どもの貧困の社会的損失レポート 2015年2月

<http://www.nippon-foundation.or.jp/news/articles/2015/img/71/1.pdf>

日本財団 ホームページ

<http://www.nippon-foundation.or.jp/>

公益社団法人 チャンスフォー・チルドレン ホームページ

<https://cfc.or.jp/>

東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター 2009年7月31

<http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/crump090731.pdf>

貧困の世代間連鎖の実証研究 – 所得移動の観点から

<http://eforum.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2007/06/pdf/075-083.pdf>

文部科学省2016年「子供の学習費調査の結果について」

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa03/gakushuuhi/kekka/k_detail / icsFiles/afiedfile/2015/12/24/1364721_1_1.pdf

日本ファンドレイジング協会 ホームページ

<http://jfra.jp/>

日本ファンドレイジング協会 調査研究 寄付白書

<http://jfra.jp/research>

平成28年 地域政策等に関する 調査研究

子供の貧困対策支援システムの在り方と運用方法に関する実証研究報告書

http://www.impactmeasurement.jp/wp/wp-content/themes/impact/pdf/MEXT_H28_children_support_system_report.pdf

文部科学省奨学金関連資料

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/069/gijiroku/_icsFiles/afiedfile/2016/02/23/1367261_7.pdf

独立行政法人日本学生支援機構

猶予年限特例又は所得連動型無利子奨学金制度について

<http://www.jasso.go.jp/shogakukin/seido/type/1shu/shotokurendo.html>

SIBの仕組み ソーシャルインパクトボンドジャパン

<http://socialimpactbond.jp/sib/howitworks.html>